長野労働局発表
（25－80）
平成 26 年 3 月 28 日

担当
労働基準部健康安全課
課　　長　　滝口和博
課長補佐　　尾関栄二
電話　026－223－0554
Fax　026－223－0591

平成２５年における労働災害発生状況（速報値）

～死傷者数は２，０００人で４年連続の増加、平成２０年以来５年ぶりに２千人台に～

長野労働局（局長　高森洋志）では、長野県における平成２５年１月～１２月の労働災害発生状況（速報値）を取りまとめました。

■　労働災害発生状況の概要

● 死傷災害発生状況

➢ 平成２５年における死傷者数（死亡、休業４日以上）、増加率ともに昨年を上回り高水準

・全産業の死傷者数は２，０００人で、前年同期に比べて９７人（５．１％）増加し、４年連続の増加【図１】

➢ 死傷者数は全ての業種で増加

・「その他の業種（主に第三次産業）」が９３５人（前年同期比５２人、５．９％増）、「製造業」が５４２人（同３３人、６．５％増）、「建設業」が２７８人（同２人、０．７％増）「運輸業」が１７５人（同２人、１．２％増）、「林業」が６４人（同４人、６．７％増）、「鉱業」が６人（同４人、２００．０％増）【図２】

➢ 転倒災害の占める割合が更に増加し２５．８％（前年　２２．０％）

・事故の型で多いのは、「転倒」が５１５人（構成比２５．８％）、「墜落・転落」が３０４人（同１５．２％）、「はさまれ・巻き込まれ」が２７３人（同１３．７％）、「動作の反動・無理な動作」が２２４人（同１１．２％）【図３】

● 死亡災害発生状況

➢ 死亡者数は、前年を大幅に上回る

・全産業の死亡者数は２０人で、前年同期に比べて７人（＋５３．８％）の増加【図４、５】

■　今後の取組方針

- 第 12 次労働災害防止推進計画の目標達成に向けて、災害増加業種等を重点に労働災害防止のための研修会、監督指導等を強化します。
- 労働災害防止団体、業界団体等との連携・協働により、「信州・危険の「見える化」推進運動」の更なる定着を目指します。
- 危険の「見える化」に関する好事例を収集し、普及啓発を行います。
- 労働災害防止特別強化月間（６月、７月、１２月）を設け、団体に対して安全パトロールの実施等、集中的な取組の実施を働きかけます。

■　平成２５年における労働災害発生状況

資料１～資料４を参照

長野労働局ホームページ参照

（http://nagano-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/jirei_toukei/saigaitoukei_jirei.html）

■　長野県における第１２次労働災害防止推進計画

長野労働局ホームページ参照

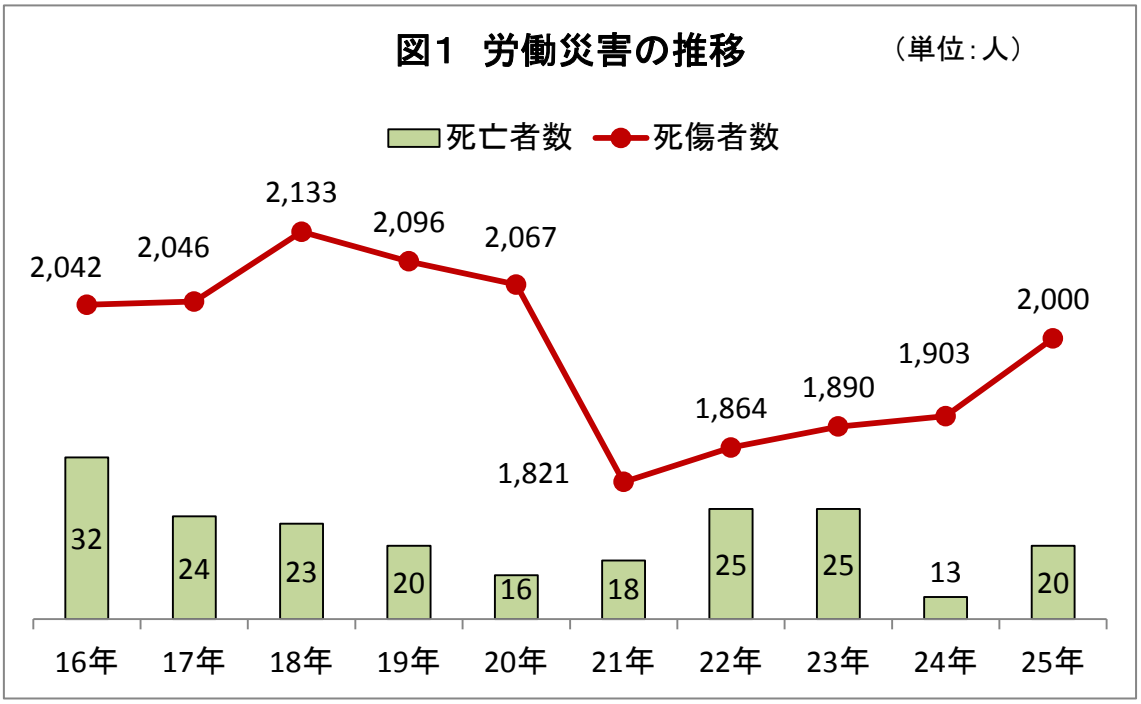
（http://nagano-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei.html）

■　信州・危険の「見える化」推進運動実施要綱

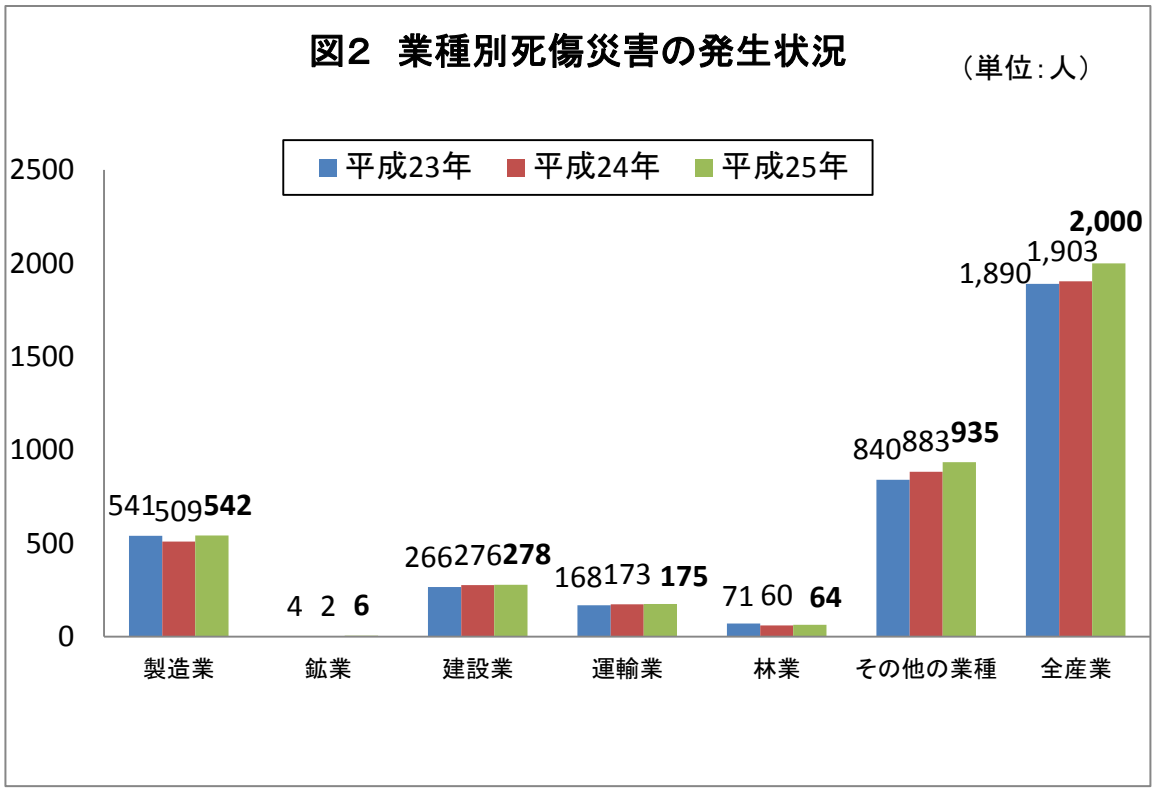
長野労働局ホームページ参照

（http://nagano-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei.html）

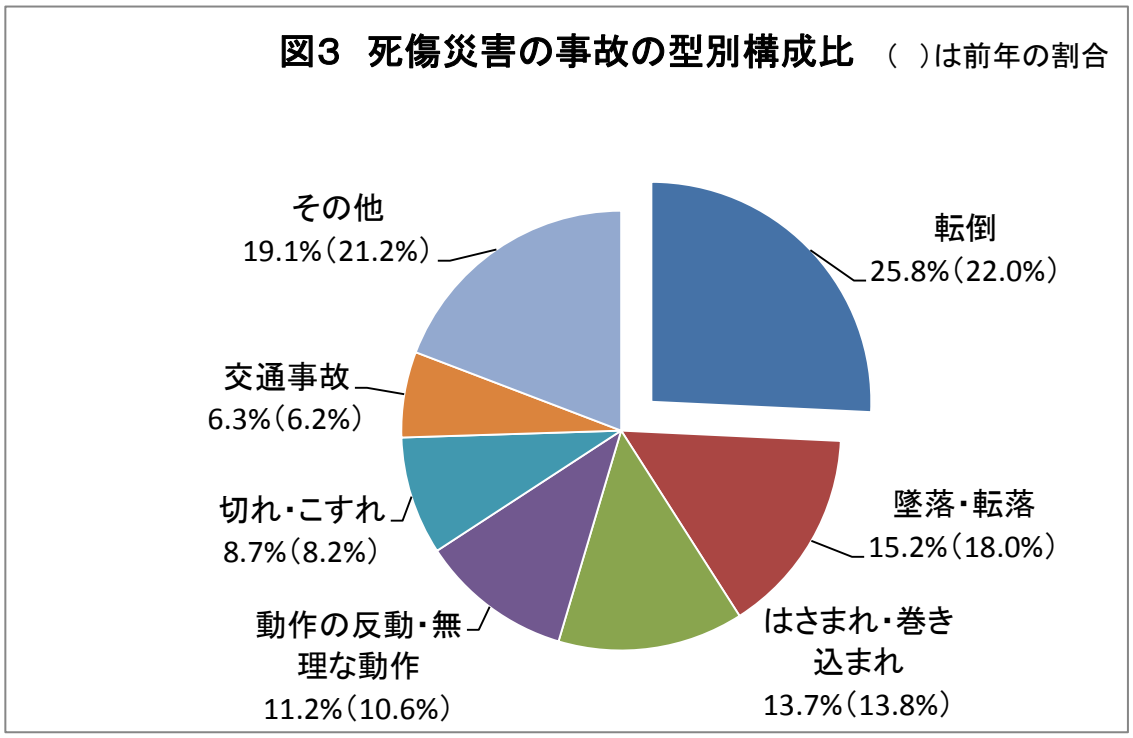
●平成25年の労働災害による死傷者数（死亡、休業4日以上）は2,000人で、前年同期に比べて5.1％増加し、4年連続の増加となりました。



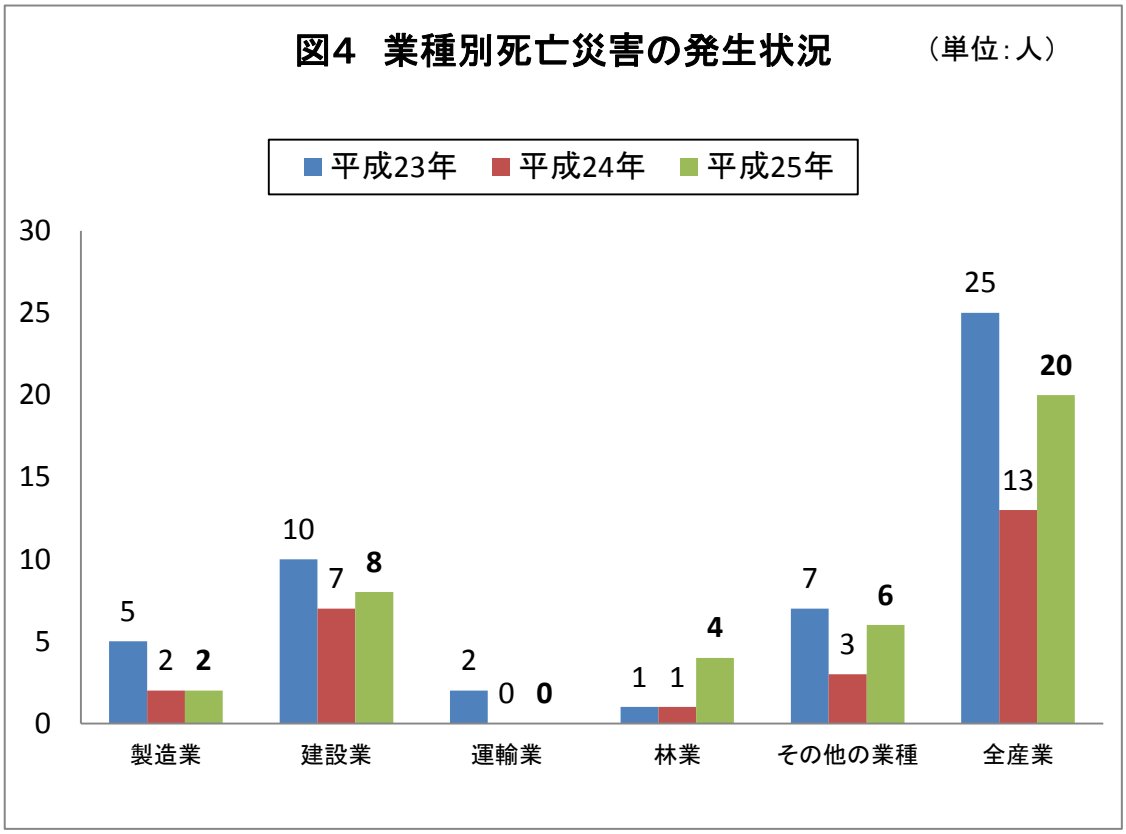
●死傷者数は、全ての業種で前年同期より増加しました。



●事故の型別では、転倒災害の占める割合が更に増加し、25.8%（前年22.0%)となっています。

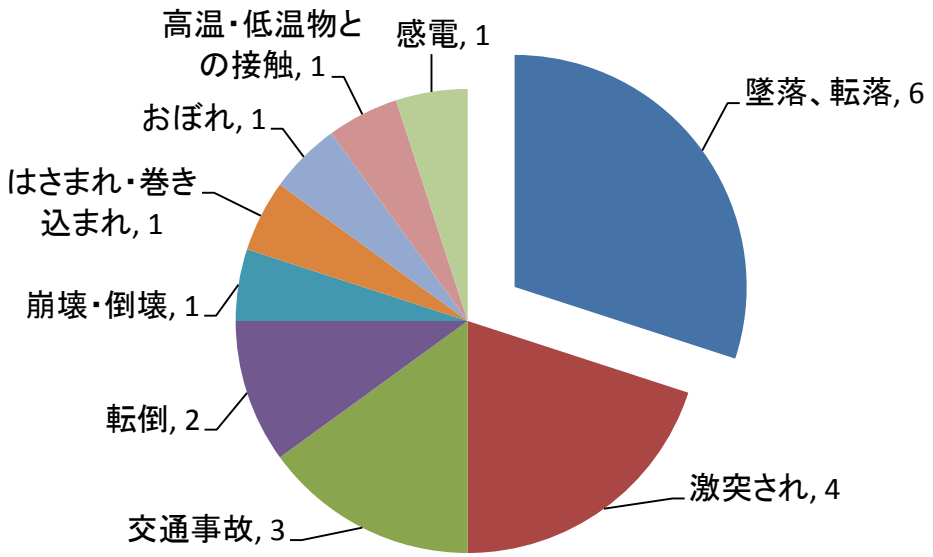


●死亡者数は20人で、前年同期に比べて7人（＋53.8%）の増加となりました。業種別では、「建設業」が8人（前年7人）、「林業」が4人（同1人）、「製造業」が2人（同2人）、「その他の業種（主に第三次産業）」が6人（同3人）となっています。



●事故の型別では、「墜落・転落」が6人、「激突され」が4人、「交通事故」が3人、「転倒」が2人、「崩壊・倒壊」、「はさまれ・巻き込まれ」、「おぼれ」、「高温・低温物との接触」及び「感電」がそれぞれ1人となっています。

図5　死亡災害の事故の型別構成　（単位：人）



資料 1

平成25年　労働災害発生状況

長野労働局

区分	業種	休業4日以上の死傷災害						死亡災害			
		平成23年	平成24年	平成25年	対前年増減		平成25年	平成23年	平成24年	平成25年	対前年
					件数	増減率(%)	構成比(%)				増減件数
製造業	食料品製造業	183	181	184	3	1.7	9.2	1	0	0	0
	繊維・繊維製品製造業	4	3	6	3	100.0	0.3	0	0	0	0
	木材・木製品、家具・装備品製造業	31	22	29	7	31.8	1.5	1	0	0	0
	パルプ・紙・紙加工品製造、印刷製本業	15	17	25	8	47.1	1.3	1	0	0	0
	化学工業	31	22	15	▲ 7	▲ 31.8	0.8	0	1	0	▲ 1
	窯業・土石製品製造業	22	33	31	▲ 2	▲ 6.1	1.6	0	0	0	0
	鉄鋼・非鉄金属製造業	17	18	19	1	5.6	1.0	0	0	0	0
	金属製品製造業	64	76	71	▲ 5	▲ 6.6	3.6	2	0	0	0
	一般機械器具製造業	74	49	56	7	14.3	2.8	0	1	1	0
	電気機械器具製造業	45	37	53	16	43.2	2.7	0	0	1	1
	輸送用機械器具製造業	25	26	19	▲ 7	▲ 26.9	1.0	0	0	0	0
	電気・ガス・水道業	1	5	2	▲ 3	▲ 60.0	0.1	0	0	0	0
	その他の製造業	29	20	32	12	60.0	1.6	0	0	0	0
	小計	541	509	542	33	6.5	27.1	5	2	2	0
鉱業		4	2	6	4	200.0	0.3	0	0	0	0
建設業	土木工事業	79	80	82	2	2.5	4.1	3	4	4	0
	建築工事業	157	159	161	2	1.3	8.1	7	2	4	2
	内数（木造家屋建築工事業）	54	55	63	8	14.5	3.2	2	1	3	2
	その他の建設業	30	37	35	▲ 2	▲ 5.4	1.8	0	1	0	▲ 1
	小計	266	276	278	2	0.7	13.9	10	7	8	1
運輸業	道路貨物運送業	118	126	110	▲ 16	▲ 12.7	5.5	2	0	0	0
	その他の運輸交通業	48	47	64	17	36.2	3.2	0	0	0	0
	陸上貨物取扱業	2	0	1	1	-	0.1	0	0	0	0
	小計	168	173	175	2	1.2	8.8	2	0	0	0
林業		71	60	64	4	6.7	3.2	1	1	4	3
その他の業種	卸売業又は小売業	236	245	258	13	5.3	12.9	2	0	1	1
	保健衛生業	168	176	201	25	14.2	10.1	0	0	0	0
	旅館その他の宿泊所の事業	55	56	63	7	12.5	3.2	1	0	1	1
	ゴルフ場の事業	9	19	13	▲ 6	▲ 31.6	0.7	0	0	0	0
	ビルメンテナンス業	30	32	45	13	40.6	2.3	0	0	0	0
	警備業	19	19	17	▲ 2	▲ 10.5	0.9	1	0	0	0
	その他	323	336	338	2	0.6	16.9	3	3	4	1
	小計	840	883	935	52	5.9	46.8	7	3	6	3
合計		1,890	1,903	2,000	97	5.1	100	25	13	20	7

（平成26年1月末値）

資料 2

平成25年　業種、事故の型別 労働災害発生状況

長野労働局

事故の型 / 業種	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	踏み抜き	おぼれ	高温・低温物との接触	有害物等との接触	感電	爆発	破裂	火災	交通事故（道路）	交通事故（その他）	動作の反動・無理な動作	その他	分類不能	合計
全産業	304	515	70	98	28	80	273	174	5	1	61	11	1	1	2	0	126	0	224	26	0	2,000
(構成比)	15.2%	25.8%	3.5%	4.9%	1.4%	4.0%	13.7%	8.7%	0.3%	0.1%	3.1%	0.6%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	6.3%	0.0%	11.2%	1.3%	0.0%	100.0%
製造業	54	103	23	28	11	15	155	62	0	0	27	7	0	1	0	0	7	0	49	0	0	542
鉱業	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
建設業	87	27	12	22	8	17	32	32	3	0	3	1	0	0	1	0	16	0	14	3	0	278
運輸・貨物取扱業	39	57	6	6	3	5	24	4	0	0	3	0	0	0	0	0	18	0	9	1	0	175
林業	6	6	0	14	2	14	6	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	64
その他	118	320	28	28	4	29	54	65	2	1	28	3	1	0	0	0	84	0	149	21	0	935

（平成26年1月末値）

資料 3

平成25年　　業種、事故の型別　死亡労働災害発生状況

長野労働局

事故の型 / 業種	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	踏み抜き	おぼれ	高温・低温物との接触	有害物等との接触	感電	爆発	破裂	火災	交通事故（道路）	交通事故（その他）	動作の反動・無理な動作	その他	分類不能	合計
全産業	6	2			1	4	1			1	1		1				3					20
(構成比)	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%	20.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
製造業						1	1															2
鉱業																						
建設業	1	1			1	2					1						2					8
運輸・貨物取扱業																						
林業	2	1				1																4
その他	3									1			1				1					6

（平成26年1月末値）

資料 4

平成25年における死亡災害事例

整理番号	発生月	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要
1	1月	土木工事業	激突され 玉掛用具	民間企業の駐車場にコンクリート板を敷設する工事で移動式クレーン仕様を備えたドラグ・ショベルをクレーンモードに切り替え、約2トンのコンクリート板の角にワイヤロープを掛けて吊りコンクリート板を吊り上げるため掛けていたワイヤロープとシャックルをコンクリート板の2箇所のフックから外すため、被災者がコンクリート板の下に潜っていたところ、角に掛けていたワイヤロープが外れコンクリート板が被災者の頭部に激突した。
2	2月	官公署	墜落、転落 はしご等	観光施設内において、草木の除伐する作業を被災者ほか2名の作業員が行っていた。被災者は上部が枯れた桜の木をチェーンソーを用いて伐倒したところ、電柱を支えるワイヤーロープに伐倒した木が引っ掛かり宙づりとなった。そのため、被災者は宙づりとなった木を地面に落とすため、移動はしごに上り、手のこを用いて木を切断したところバランスを崩して移動はしごから墜落した。
3	2月	卸売業	交通事故（道路） トラック	堤防上の道路（市道）において、軽貨物自動車を運転していた被災者が交差点を左折する際、後方から進行してきた中型貨物自動車に衝突され、死亡したもの。
4	4月	一般機械器具製造業	激突され ボール盤、フライス盤	被災者はラジアルボール盤で金型を加工するために、天井クレーンを使用して金型を吊り上げて当該ボール盤のテーブルに移動させようとしたところ、当該ボール盤が倒れ、被災者が下敷きになった。
5	5月	木材伐出業	激突され 立木等	勾配45度の急傾斜地において、樹高7メートル、胸高直径60センチメートル程のナラの枯損木の伐倒の際に、「根部分」が抜け、且つ「幹部分」が隣接する木の枝に接触して、「幹部分」の下側（根側）から谷方向に滑り落ちたため、伐倒作業員が当該「幹部分」に激突された。
6	6月	林業	墜落、転落 地山、岩石	国有林内にある架空電線下の平均勾配約50度の斜面において、刈払機を使用して、成長すると電線の支障となってしまう幼齢木（径5cm未満）の刈払い作業中、作業が終了したことから、翌日以降、引き続き作業ができるよう、刈払機の刃を取り外して刈払機本体を地面に置いて、斜面を移動したところ、何らかの事由によりバランスを崩して墜落し、約100m下のスノーシェッド付近まで墜落した。
7	6月	建築工事業	墜落、転落 屋根、はり、もや、けた、合掌	被災者が勾配32度の屋根面上で屋根葺き作業を行っていた際、雨で濡れた屋根面で足を滑らせ、高さ3．75mの屋根面から高さ3．55mの足場板上に滑り落ち、更にそのまま足場板上から地面に墜落したもの。
8	7月	電気機械器具製造業	はさまれ、巻き込まれ その他の一般動力機械	めっきラインで被災者が1名で作業を行っていた際に、ライン内に立ち入ったところ、2つのハンガー（キャリアにつられたハンガーと中継-1と呼ばれる場所に置かれたハンガー）に体をはさまれ、体をはさまれたままキャリアが動いたため頸部が圧迫され死亡した。

平成25年における死亡災害事例

整理番号	発生月	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要
9	7月	旅館業	墜落、転落 はしご等	旅館の大浴場脱衣所において、同僚と二人で天井裏にある換気扇を清掃作業中、同僚が天井裏へ脚立（天板までの高さ１．９９m）で昇り、取り外したフィルターを被災者に手渡し、被災者はそれを掃除して、再び、脚立に昇って天井裏に置いたあと、何らかの事由によりバランスを崩して脚立とともに床面へ墜落して頭部を強打し、病院へ搬送されたものの死亡した。
10	8月	建築工事業	高温・低温の物との接触 高温・低温環境	墓地のリフォーム作業中（玉砂利部分を石貼りに変更する工事）、石貼り作業に従事していた被災者が石柵（高さ52cm）にもたれ込んでいるのを工事担当者が発見し、消防署へ通報し、病院へ搬送されたが死亡したもの。
11	8月	農業	おぼれ 建築物、構築物	被災者は、単独で、農業用水路（幅7．9m・水深約2．5m）の左岸にある揚水機場の取水口に取り付けられた鉄製柵に付着した草などのゴミを除去する作業中、取水口上のグレーチングの作業床（126×120cm）又は取水口入口ゲートからグレーチングの作業床に至る間にあるコンクリート製階段（幅110・踏面24．5・蹴上25cm）から当該用水路に転落し、約500m下流で心肺停止の状態で発見された。
12	8月	土木工事業	交通事故（道路） その他の建設用機械	被災者がアスファルトフィニッシャーを運転し、登り勾配8度の箇所に差し掛かったところで速度が落ちてきたことから、ギアを高速側から低速側に切替えようとしたがギアが入らずニュートラルの状態となったため、当該アスファルトフィニッシャーが約20メートル後退して、民家の土蔵に激突し、土蔵の壁とアスファルトフィニッシャーの運転席に腹部から下を挟まれたもの。
13	8月	木材伐出業	墜落、転落 立木等	住宅敷地内の榎（高さ15メートル、胸高直径47．5センチメートル）を吊り切りにより伐採する作業中、被災者が伐採予定の枝先に吊り上げ用のワイヤーロープを玉掛けしようと枝の上を移動したところ、乗っていた枝が折れ、7．58メートル下の地面に墜落した。
14	9月	建築工事業	転倒 掘削用機械	木造家屋の基礎工事において、ドラグ・ショベルを用いて掘削作業を行う被災者が、掘削作業により発生した最大勾配約30度高さ約90センチに積まれた残土の頂上まで上部旋回体を反時計回りに90度回転させた状態で後進させたところ、当該ドラグ・ショベルがバランスを崩し転倒し、被災者が地面との間にはさまれたもの。
15	9月	木材伐出業	転倒 解体用機械	伐木作業を行っていた被災者が、解体用機械を運転して斜面（28度から34度）に対してほぼ90度の向きで作業を行っていたところ、機体がバランスを崩して横転し、運転席から投げ出された被災者にアームが激突したもの。
16	11月	建築工事業	交通事故（道路） トラック	事業場事務所に集合し、1．5tトラックに被災者を含めた3人が乗車し、同僚が運転して物置トタン張替工事現場へ向かう途中、当該トラックが前方の車に追突しそうになったため、避けようとハンドルを右に切ったところ、対向車線を走行してきた乗用車と正面衝突し、体を圧迫され死亡した。

平成25年における死亡災害事例

整理番号	発生月	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要
17	11月	農業	墜落、転落 はしご等	被災者が、高さ約8メートルの樫の木にはしごをかけ、一人で剪定作業を行っていたところ、地面（石畳）に墜落し、頭を強く打ったもの。
18	11月	その他の事業	感電 電力設備	電気室内の高圧受電設備（キュービクル）移設による高圧ケーブル交換工事に伴い、ケーブル耐圧試験を実施した。試験が終了し、被災者が後片付けをしていたところ、充電中の高圧母線に左手甲が接触し感電、3時間後に死亡したもの。
19	11月	土木工事業	激突され 立木等	砂防堰堤新設の準備工事として支障木の伐採を行っていた。樹高20メートル、胸高直径20センチメートル程のミズメ（梓）を伐倒中、突然幹が裂け、被災者の腹部に激突したもの。
20	11月	土木工事業	崩壊、倒壊 地山、岩石	砂防堰堤工事の現場において、被災者は構築した型枠の中で確認の作業をしていたところ、脇の地山（高さ約10メートルの箇所）が幅約5メートルにわたって崩れ、崩落した土砂と岩石の下敷きとなった。 被災者は約4時間後に救出されたものの、後に死亡が確認された。